



SHOP

NYのセレブが日本に伝播させたのは、 酵素パワーの…お洒落な洗剤!

その名は「ザ・ランドレス」、こだわりのファブリックケア。

2009年の基開けとともに、日本のファブション業界に新たな旋風を巻き起こしてこれるであろうファブリックケア・ブランドが日本に上陸した。その伝道師とは、誰もが憧れる土地NYで、ファブションの現場に携わりつづけるファブションセレブ、リンジーとグウェンというふたりの女性だ。



LINDSEY WIEBER
GWEN WHITING

リンジー・ウェバー（左）は、ブルックス、ブラマーズでバイヤーを務めた後、シャネルの企業セールスマンジャーとして、シャネルやバーバードル・グッドマン、ニーマン・マーカスといった老舗デパートでの顧客マネジメントを経験。グウェン・ホワイトティング（右）は、ラルフ・ローレンでレディースウェア、ホームコレクションのシニアデザイナーを5年間務めた経験を持つ。ともに、テキスタイル、アパレルデザイン、マネジメントを学んだファブリックのスペシャリスト。

ンで、レディースウェアやホームコレクシヨンのシニアデザイナーを務めた経験を持つ。「ドライクリーニングに出すのが嫌だったの」。すべてのプロジェクトは、服の素材を理解し、ドライクリーニングの実態、裏面を知るからこそ、いわばまったく違うわがままから始まった。シャネルのジャケットの飾りを全部取られてしまった（もちろん補償なし）、リンジー。シミ抜きに出したつもりが、逆にシミが取れなくなってしまった経験を持つグウェン。

そんなクリーニングでの悔しい思い出がブランド設計の原動力だ（特に米国のクリーニングは、少々手荒いところも多いのかもしれないが）。大切な洋服、洗えるものなら自分で丁寧に洗いたい。もちろん、確実にケアできる方法を使って、そんな思いのもと、服のためを考えて植物由来に「こだわり、いろいろな酵素（アミラーゼ、リパーゼ、プロテアーゼ、セルラーゼ）」を使って研究・開発していくうちに、結局、地球に優しいプロダクトが完成した。つまり、エ

コブ、というなんともセレブらしい美意識の結果を導き出してしまったこのふたり。エコロジーは、こうした自然な形で進められるのが、長続きする環境保護だという彼女たちの意見。なるほど、こもつともである。

さて、そんなふたりがなぜ日本に目をつけたのか気になることも。実は、コレクシヨンのシニアのNY、パリ、ミラノなどで目撃した、服への情熱が理解される国だと確信させる、日本人のファブションセンスのよさだという。素材によって、服が洗えない、手入れが面倒。これは、日本でももちろん、世界共通のファブションの悩みであり課題であった。そこに、繊細な服を自分で洗えるという誰もが求めている安心感の登場役の「THE LAUNDRESS」だ。

これは、ファブション業界のちよつとした革命のよきなものではないだろうか。服にはもちろん、地球にも人にも優しい、時代に合った、便利でお洒落な商品（「エコLAUNDRESS」は、コラボレーション



洗剤されたお洒落なパッケージや、香りも楽しめるライナップ。



ウールもカンミア用、デニム用、ランジェリー用、水着用、毛やあくす取り除き用—と用途や素材に細分化されているこの商品。特に、犬や猫を飼っている人には、動物の毛を取り除く酵素を含んだ製品（注：ペットファブリックウォッシュ）がおすすめです。

ヨシでもルンパン、ペラファイネをはじめたOZAMAなど高品質で繊細な素材のブランドから引つ張りだ。このように、セレブアイテムという枠を超えて、旋風を巻き起こしてくれそうだ。